

塩で防げ！外来藻類ミズワタクチビルケイソウ



- ・ 外来生物と考えられるミズワタクチビルケイソウ（*Cymbella janischii*）は、0.1ミリ程度の微細な藻類です。繁茂するとミズワタのような群生をつくり、**魚類、水生昆虫の生息や生育だけでなく、仕掛けに藻がまとわりつくなど、釣り自体にも支障をきたすことが懸念**されます。
- ・ 令和3年時点で、東北、関東、中部、九州地方の複数の河川から、既に確認されています。
- ・ 外来藻類は、侵入河川で使用した釣り具やたも網、長靴、ウェーダーなどに付着するので、その後、殺藻せずに他河川で使用すると拡大させてしまいます。
- ・ これ以上拡大しないように、釣り人自身の対策も必要です。
川で使った道具はすべて殺藻しましょう！

令和4年3月
水産庁

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
全国内水面漁業協同組合連合会
長野県水産試験場

詳しくは裏面へ！



3つの有効な殺藻方法

★ 食塩水 5%* 以上

*1リットル弱の水に50gの食塩を溶かす

釣り具についたミズワタクチビルケイソウは、濃度5%以上の食塩水に1分以上浸すことで殺藻できます。

ウェーダーのフェルトは、特に念入りに！

——塩が使えない場合——

リールなど食塩水に浸したくない道具には、下記の方法も可能です。
いずれかの方法で、必ず殺藻しましょう。

○ お湯 60℃以上

60℃以上のお湯に1分以上、漬けてください。

○ エタノール 50%以上

釣り具が濡れている場合は、水気をかたんに切ったあと、消毒用アルコールを十分に吹きかけてください。



※ミズワタのようなものが繁茂しているのを発見したら、漁協や都道府県の水産試験場などに、速やかに報告をお願いします。

参考

- 1 このリーフレットで紹介した情報についてご不明な点がございましたら、水産研究・教育機構水産技術研究所内水面グループにお問い合わせください。
- 2 このリーフレットに掲載した図表や写真を転載する場合には、水産研究・教育機構沿岸生態システム部内水面グループに許諾を求めてください。
- 3 完成版リーフレットは、令和4年4月以降に水産庁ホームページに掲載される予定です。